

副産物情勢

5月6日

更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項目	内容	備考																								
内臓	<p>1.国産牛</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年3月の成牛と畜頭数は、89.4千頭(前年比111.0%、前月比116.0%)となった。内訳を見ると、和牛40.1千頭(前年比119.2%)、交雑牛18.9千頭(同104.6%)、乳牛去勢13.2千頭(同97.9%)であった。 ○ 令和3年4月の成牛と畜頭数は、速報値(4/30まで集計)で89.7千頭(前年比106.2%)となっている。 ○ (独)農畜産業振興機構が4月27日に公表した牛肉の需給予測によると、5月の出荷頭数は乳用種の出荷頭数が前年同月を下回るものの、和牛及び交雑牛種で出荷頭数の増加が見込まれることから、前年同月並と予測している(5月出荷頭数予測(前年比):和牛101.1%、交雑種102.1%、乳用種97.6%、合計:100.3%)。3ヶ月平均(3~5月)について、出荷頭数(前年同期比105.1%)・生産量(同105.0%)ともに前年同期をやや上回ると予測している。 ○ 需要動向は、まん防措置・緊急事態宣言によって外食向け赤物需要が停滞してきたが、白物は輸入品の代替需要で好調な荷動きをしているようだ。ホルズ玉の販売に苦戦しているメーカーが多く、外食消費は和牛玉で事足りている状況だと考えられる。 ○ 昨年4月頃のように荷動きが止まったわけではないものの、多くの問屋筋が荷動きの読みづらさに困惑していると思われる。 	<p>1.東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛内臓</th> <th>豚内臓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年6月6日</td> <td>40/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成31年4月1日</td> <td>45/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年4月20日</td> <td>25/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>7/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和3年1月25日</td> <td>25/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和3年4月1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>7/枝kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>※乳牛も同様35円/kg *豚正貫物</p>	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg	平成31年4月1日	45/枝kg	9/枝kg	令和2年4月20日	25/枝kg	5/枝kg	令和2年7月1日	35/枝kg	7/枝kg	令和3年1月25日	25/枝kg	5/枝kg	令和3年4月1日	35/枝kg	7/枝kg			
	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓																							
	平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg																							
平成31年4月1日	45/枝kg	9/枝kg																								
令和2年4月20日	25/枝kg	5/枝kg																								
令和2年7月1日	35/枝kg	7/枝kg																								
令和3年1月25日	25/枝kg	5/枝kg																								
令和3年4月1日	35/枝kg	7/枝kg																								
<p>2.国産豚</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年3月度全国の肉豚出荷頭数は1,519千頭(農林水産統計4/30公表 前年同月比105.9%、前月比113.6%)となった。3月の全国地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道107.3%、東北106.1%、関東105.5%、北陸甲信越106.9%、東海118.5%、近畿105.1%、中四国109.0%、九州・沖縄103.0%となった。 ○ 令和3年4月の全国と畜頭数は、速報値で1,394千頭(4/30まで集計)、前年同月比96.2%となっている。稼働日数では昨年と同じ21日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で66,400頭となっている。(前年は69,007頭/日) ○ 農水省食肉鶏卵課令和3年4月22日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和3年5月1,327千頭(前年同月比103%)、6月1,276千頭(同96%)、7月1,289千頭(同95%)、8月1,290千頭(同102%)、9月1,312千頭(同97%)となっている。 ○ 需要動向は、外食消費が多いレバー、直腸は市中在庫が多いが、肉食・中食需要があるタン、ハラミ、小腸は堅調に推移しているようだ。輸出需要がある豚足・豚耳は品不足感があるほど好調なようで、ガツ・大腸も安価ながら一定の引き合いがあると聞く。 ○ 昨年4月頃のように荷動きが鈍くなっているわけではないものの、多くの問屋筋が荷動きの読みづらさに困惑していると思われる。 	<p>2.大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛内臓</th> <th>豚内臓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年5月30日</td> <td>40/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成31年4月1日</td> <td>45/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年4月20日</td> <td>25/枝kg</td> <td>3/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>4/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和3年1月25日</td> <td>25/枝kg</td> <td>3/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和3年3月11日</td> <td>35/枝kg</td> <td>4/枝kg</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg	平成31年4月1日	45/枝kg	5/枝kg	令和2年4月20日	25/枝kg	3/枝kg	令和2年7月1日	35/枝kg	4/枝kg	令和3年1月25日	25/枝kg	3/枝kg	令和3年3月11日	35/枝kg	4/枝kg				
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓																								
平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg																								
平成31年4月1日	45/枝kg	5/枝kg																								
令和2年4月20日	25/枝kg	3/枝kg																								
令和2年7月1日	35/枝kg	4/枝kg																								
令和3年1月25日	25/枝kg	3/枝kg																								
令和3年3月11日	35/枝kg	4/枝kg																								
<p>3.輸入牛</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年3月の輸入通関実績によると牛肉輸入量は全体で46.2千ト(前年比97.2%、前月比123.8%)となった。内訳は、チルドが22.9千ト(前年比91.7%、前月比127.7%)、フローズンが23.4千ト(前年比103.2%、前月比120.2%)となった。輸入量については、チルドは北米からの入船遅れや豪州・米国における現地価格の高騰等から前年を大幅に下回り、不足したチルドを補うためフローズンは前年をわずかに上回った。しかし、フローズンは前年の輸入量が多かったことから4月以降は前年を大幅に下回ると予測される。 ○ (独)農畜産業振興機構が4月27日に公表した牛肉の需給予測によると、チルドの輸入量は北米からの入船遅れの影響、米国・豪州における現地価格の高騰等から、4月は前年同月を大幅に下回ると予測する。5月も同様の影響があったが、前年の輸入量が北米の現地工場の稼働停止により少なかったため、前年同月並みに留まることが見込まれる。一方、フローズン輸入量は冷蔵品と同様の影響等により4月は大幅に、5月はかなり大きく、前年同月を下回ると予測する。 ○ 令和3年3月の冷凍輸入牛レバーは109.4ト(前年比166.8%・前月比163.4%)で、国別では米国48.7t、豪州50.6t、墨国9.9tであった。冷凍輸入牛腸は1,158ト(前年比87.6%・前月比163.4%)で、国別では米国641.8t、豪州273.4t、墨国174.9t、加奈陀68.0tとなった。 	<p>3.東京市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛原皮(和牛)</th> <th>豚原皮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年11月1日</td> <td>1,000/枚</td> <td>100/枚</td> </tr> <tr> <td>平成31年1月5日</td> <td>1,000/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年7月22日</td> <td>700/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年3月16日</td> <td>500/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年6月15日</td> <td>100/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月20日</td> <td>100/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月28日</td> <td>10/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮	平成30年11月1日	1,000/枚	100/枚	平成31年1月5日	1,000/枚	30/枚	令和元年7月22日	700/枚	10/枚	令和2年3月16日	500/枚	10/枚	令和2年6月15日	100/枚	10/枚	令和2年7月20日	100/枚	2/枚	令和2年9月28日	10/枚	2/枚	
価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮																								
平成30年11月1日	1,000/枚	100/枚																								
平成31年1月5日	1,000/枚	30/枚																								
令和元年7月22日	700/枚	10/枚																								
令和2年3月16日	500/枚	10/枚																								
令和2年6月15日	100/枚	10/枚																								
令和2年7月20日	100/枚	2/枚																								
令和2年9月28日	10/枚	2/枚																								
原皮	<p>1.牛原皮</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年3月の輸出実績は、39,395枚(前年比105.8%、前月比83.3%)で、前年を上回った。輸出平均価格は1,892円/枚(前年比-3円、前月比+138円)で、7カ月連続で前月比がプラスに転じた。 国別実績は、タイ14,930枚(前年比67.2%)、ベトナム11,280枚(同284.8%)、韓国10,345枚(同93.4%)、香港2,840枚(同実績なし)であった。一方、ウェットブルーの輸入は、11.4千枚(前年比62.3%、前月比72.9%)、牛大判皮は13.3千枚(前年比51.6%、前月比89.7%)となった。 ○ 海外情勢は新型コロナワクチン普及等による経済活動回復の期待感から流通価格が回復傾向であり、国内流通価格を一部では上回っているようだ。但し、米国からの輸出枚数が増え始めていることから価格の回復スピードが鈍化しており、予断を許さない状況である。 ○ 国内情勢は相変わらずインバウンド需要等が回復していないことからタンナーは少ロットでの生産を余儀なくされている。 	<p>4.大阪市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛原皮(和ヌキ)</th> <th>豚原皮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年1月28日</td> <td>1,300/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年7月16日</td> <td>1,000/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年8月15日</td> <td>1,000/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年3月16日</td> <td>800/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年6月22日</td> <td>300/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月27日</td> <td>300/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月28日</td> <td>10/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛原皮(和ヌキ)	豚原皮	平成31年1月28日	1,300/枚	30/枚	令和元年7月16日	1,000/枚	30/枚	令和元年8月15日	1,000/枚	10/枚	令和2年3月16日	800/枚	10/枚	令和2年6月22日	300/枚	10/枚	令和2年7月27日	300/枚	2/枚	令和2年9月28日	10/枚	2/枚
	価格改定年月日	牛原皮(和ヌキ)	豚原皮																							
平成31年1月28日	1,300/枚	30/枚																								
令和元年7月16日	1,000/枚	30/枚																								
令和元年8月15日	1,000/枚	10/枚																								
令和2年3月16日	800/枚	10/枚																								
令和2年6月22日	300/枚	10/枚																								
令和2年7月27日	300/枚	2/枚																								
令和2年9月28日	10/枚	2/枚																								
<p>2.豚原皮</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年3月の輸出実績は、1,183,100枚(前年比138.6%、前月比101.4%)で、前年・前月ともに上回った。輸出平均価格は470円/枚(前年比+18円、前月比+22円)となった。 国別実績は、タイ904.2千枚(前年比148.6%)、ベトナム164.9千枚(同139.7%)、韓国21.0千枚(同38.8%)、カンボジア93.0千枚(同127.7%)、香港・フィリピン・台湾・ミャンマーは実績なし。 ○ 需給動向は、前月同様に堅調に推移しており、コロナ以後生産を減産していたタンナー等から引き合いが増えている話を聞く。 ○ 輸出用コンテナが不足して流通に若干影響はあるものの、建値市場の価格改定が近いうちにされることを期待したい。 	<p>5.油脂価格(食用向け) 単位:円/kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛脂</th> <th>豚脂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年8月1日</td> <td>95</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月1日</td> <td>95</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>令和2年11月1日</td> <td>95</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>令和3年2月1日</td> <td>90</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>令和3年4月1日</td> <td>85</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛脂	豚脂	令和2年8月1日	95	95	令和2年9月1日	95	85	令和2年11月1日	95	80	令和3年2月1日	90	80	令和3年4月1日	85	80							
価格改定年月日	牛脂	豚脂																								
令和2年8月1日	95	95																								
令和2年9月1日	95	85																								
令和2年11月1日	95	80																								
令和3年2月1日	90	80																								
令和3年4月1日	85	80																								
レンダリング	<p>1.油脂等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4月渡しの国産食用加工油脂向け豚脂は80円/kg(据置き)、牛脂は85円/kg(5円/kg下げ)となった。豚脂はまん防措置・緊急事態宣言によって外食消費が再び低迷していることで「コロナ禍が続く間は需要の回復が厳しい」という声が多数聞こえてくる。牛脂は石鹼メーカーが1-3月期で工場が停止していたことから需給が緩んでいたが、今後は大手ファーストフードチェーンやカレールウ需要で荷動きが回復してくるだろう。 ○ 3月マレーシア産パーム油相場は、135円(前月+3円)で高値推移している。要因は①減産(ラニーニャ現象による多雨、コロナ影響による農園労働者不足)、②シカゴ大豆・大豆油相場の高騰が想定される。2月生産量は前月比1.9%減少し、月末在庫は130万トンとなった。前月同様の低水準でタイト感は継続している。 ○ 3月の関東飼料用油脂は74円/kgと前月・前年とも同様であった。工業用油脂は45円/kgと前月・前年とも同様であった。 ○ 3月のUCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格は、前月・前年と同様の63円~66円/kg辺り。 																									